

## 「福井ふるさと元気宣言」推進に関する政策合意

私は、知事の政策スタッフとして、「福井ふるさと元気宣言」に掲げられた政策等を実現するため、次に掲げる施策・事業について重点的に実施することを西川一誠知事と合意します。

平成27年7月

福井県知事 西川 一 誠  
安全環境部長 櫻 本 宏

27年度目標（30年度目標）

### 27年度の施策

#### 1 原子力エネルギーの確かな将来展望と地域振興

##### ◇「安全最優先」の原子力行政

###### ○責任ある原子力・エネルギー政策の実行を国に対し要請

- ・国に対し、原子力発電の重要性・必要性について、その方針を明らかにし、県民・国民の理解のため責任ある発言と対応を求めます。
- ・国に対し、エネルギーミックスにおいて示された電源構成比率について、その積極的な意義づけや実現の方法を明らかにするよう求めます。

###### ○再稼働への慎重な対応

- ・原発の再稼働については、国による審査状況や事業者の安全対策の達成状況等を県原子力安全専門委員会において厳正に確認します。
- ・国に対し、新規基準に基づき、科学的・技術的観点から原発の安全を遅滞なく効率的に確認するとともに、福島事故の教訓を踏まえ、現地に軸足をおいた安全規制体制の充実強化を求めます。

- ・事業者に対し、福島事故の教訓を踏まえた事故制圧や防災体制の強化の観点から、関連会社を含め現地において組織・人員体制の充実強化を図るよう求めます。

#### ○高速増殖炉「もんじゅ」への対応

- ・国に対し、「もんじゅ」が果たすべき使命を明確にし、県民・国民が信頼できる体制を構築するとともに、研究開発の工程を明らかにし、国際的な研究拠点として成果をあげるよう求めます。

#### ○40年超運転と廃炉対策

- ・40年を超える原子力発電所の運転の延長については、プラントの安全確保を前提とした県民理解が必要不可欠であり、国の審査の内容等について、県原子力安全専門委員会において厳正に確認・監視します。
- ・廃炉については、事業者との間で廃炉に関する新たな安全協定を締結します。更地化までの長期の安全対策の進捗を国が管理監督する体制の整備や立地地域の振興を担保する法的措置の実施について、国に対し提言します。
- ・電力事業者が策定する「廃炉工事発注計画」により、地元発注の機会を拡大します。県が設置する「廃炉業務評価委員会」において県内企業の製品等の実用性を評価し、事業者の積極活用を促進します。
- ・使用済燃料の中間貯蔵施設の県外立地の早期実現について、国、事業者による具体策の提示・実行を求めます。

#### ○原子力防災対策の充実・強化

- ・国の地域原子力防災協議会における協議・検討を通じ、P A Z（発電所5 k m圏内）およびU P Z（発電所5～30 k m圏内）地域の防災対策を継続的に強化します。
- ・原子力防災訓練については、プラントのシビアアクシデントを想定した事故制圧、安定ヨウ素剤の配布、スクリーニング・除染など、個々の訓練の充実強化を図ります。

- ・半島部ヘリポート（４か所）および放射線防護施設（５か所）を整備します。

## 2 日本一の安全・安心（治安充実から治安万全へ）

### ◇あらゆる災害対応を迅速第一【部局連携】

#### ○「最初動」即応の危機対策

- ・地震やゲリラ災害などに備え、災害が発生する前段階で国や市町、防災関係機関と連携し、迅速かつ的確な初動対応を行います。
- ・東日本大震災での津波や近年の大雨等による災害を踏まえ、土砂災害と津波災害など複合災害を想定した総合防災訓練を実施します。  
実施日 ８月３０日、会場 小浜市
- ・孤立集落対策として、夜間でもヘリコプターが離発着できるよう照明設備を整備（５か所）し、空路による避難手段を確保します。

### ◇「安全・安心ふくい」確立プラン【部局連携】

#### ○犯罪・事故の未然防止を追及

- ・振り込め詐欺など高齢消費者被害を抑止するため、消費生活教室や安全安心講習会の受講者数を増やします。（平成 26 年度 2,707 人）

3,000 人（４年間計 12,000 人）

#### ○子ども・女性の安全強化

- ・見守り活動を強化するため、声かけ事案発生場所を重点的に見回る「重点見守り協力員」を小学校区ごとに指定します。（平成 26 年度 ー ）

60 小学校区（４年間計 194 小学校区）

### ○通学路や高齢者の安全確保

- ・スマートフォン用の安全運転支援アプリの利用を促進するとともに、アプリの運営企業に交通事故防止につながる新たな機能の追加等を働きかけます。
- ・県と市町の交通対策担当者が一堂に会する「交通安全推進連絡協議会」を設置し、ビッグデータを活用した**危険箇所の改善等の事故防止対策**を進めます。(平成 26 年度 ー )

50 小学校区 (4 年間計 194 小学校区)

## 3 豊かな環境、すぐれた風景を次の世代に

### ◇ 元気な里山里海湖

#### ○すべての市町に「ふるさと学びの森」

- ・県民が里山里海湖に触れ親しめる機会を増やすため各市町に「ふるさと学びの森」を整備 (17 か所) します。
- ・季節ごとの自然を楽しみ学ぶため、県民が季節の移ろいに応じた**生きものの調査・報告**を行います。(平成 26 年度 ー )

300 件 (1,000 件)

#### ○コウノトリを大空へ

- ・地元のえさ場環境づくりなどと協力して、コウノトリの幼鳥 2 羽の野外放鳥を実施します。
- ・無農薬農法や水田魚道等の設置など生き物の豊かな里づくりを実践する「**生き物ぎょうさん里村**」の認定数を増やします。  
(平成 26 年度累計 37 地域・団体)

5 地域・団体増 累計 42 地域・団体 (累計 50 地域・団体)

### ○福井の宝「世界の年縞」

- ・福井の宝である年縞の研究を推進するとともに、教育・観光に活用するため年縞研究展示施設の基本設計を行います。
- ・立命館大学と年縞を活用した共同研究を推進します。

### ◇低炭素のまちづくり推進

#### ○温室効果ガスの排出抑制

- ・「1市町1エネおこし」の成果発表や先進的な取組み事例を表彰するとともに、再生可能エネルギーの導入事業を支援し、**再生可能エネルギーによる地域おこしに取り組む市町を増やします。**  
(平成26年度累計 4市町)

**3市町増 累計7市町 (累計17市町)**

- ・再生可能エネルギーを活用し、災害に強い地域づくりを行うため、県や市町等の防災拠点や避難所へ太陽光発電・蓄電池などを整備します。

### ◇まちをきれいにモノを大切に

#### ○国体に向けクリーンアップの総作戦

- ・スマートフォンアプリ「ピリカ」の利用を呼びかけ、「ピリカ」を使った**ゴミ拾い活動参加者数**を増やします。(平成26年度 12,331人)

**2万人 (4年間計10万人)**

- ・ごみのない海岸線を維持するため、沿岸11市町において、住民や漁協の協力を得て海岸漂着物・漂流物の回収・処分を実施します。

## ○ごみ減量化の徹底

- ・分別回収の強化や排出を自ら抑制する方策など、ごみの減量化や再資源化の今後の方針を示す新たな廃棄物処理計画を策定します。
- ・「3R推進全国大会」を11月に開催し、全国に本県提唱の食べきり運動をアピールします。
- ・飲食店やスーパーと共働で食べきり運動をPRし、**食べきり運動の認知度向上**を図ります。  
(平成26年度 56%)

62% (80%)

- ・県内各地での自主的な古本市やおもちゃ病院の実施のため、**古本リサイクルやおもちゃ修理を行う団体**を育成します。  
(平成26年度累計 6団体)

1団体増 累計7団体 (累計12団体)

## ◇景観を県民資産に

### ○「わがまち景観」の保全・継承

- ・「ふくいふるさとの音風景」について、ワークショップの開催や音風景にまつわる物語(思い出作文)の募集により、**音風景の投稿数**を増やします。(平成26年度累計 53件)

77件増 累計130件 (累計400件)